

2024 年 第 25 回認定看護管理者会総会・研修会の報告

日 時： 2024 年 2 月 10 日（土） 10：00～16：30

会 場： 日本看護協会 JNA ホール

総 会（10：00～11：15）

出席者数：77 名 委任状：540 名 （会員総数：852 名 2023 年 12 月 31 日現在）

会則第 14 条に従い、委任状を含め過半数を超えたため総会成立。

報告第 1 号 2023 年事業報告（重点目標総括等）

報告第 2 号 2023 年会計報告・会計監査報告

議案第 1 号 2024 年事業計画

議案第 2 号 2024 年予算

議案第 3 号 役員改選



総会要綱に沿って報告がされ、報告第 1 号・2 号については質疑なく承認された。

議案第 2 号の 2024 年予算について、会場より「郵送費等の高騰が今後予測されるため会報等の発送は検討が必要ではないか」「繰越金や予備費が増えているが災害支援への活用等を考えているか」「認定看護管理者審査の合格率を上げるためにサードレベル修了者へのサポートができないか」との質問があった。執行部より「会報についてはメール配信やホームページへの掲載などを視野に、会員の意見を募り検討したい」「災害支援は、当会の規模や会員個々での支援活動も考慮して考えたい」「認定制度に関する会議に当会役員は出席しており、会の意見として伝えていく」と回答の後、議案 1～3 号について全て承認された。

2024 年は下記の活動計画を以って、各地区ブロック役員とともに活動する。



- I. 認定看護管理者の現状と求められる役割を考察する
- II. セカンドキャリアを含めた看護管理者の生涯学習とリスクングを支援する
- III. 地域に根ざした認定管理者の連携と相互支援を推進する

地区ブロック別懇談会（11：15～12：00）

地区別に少人数グループに分かれ、2024 年の活動計画をテーマに活発な意見交換が行われた。話し合いの内容は資料参照。

ランチョンセミナー（12：15～12：50） 株式会社キュアメド主催

「特定行為研修を終了した認定看護管理者の立場から考える特定看護師の育成」

公立昭和病院企業団 公立昭和病院 看護部長 山本 由美 様

認定看護師として特定行為研修を終了した講師が、プレーヤーとしての立場と認定看護管理者としての立場から特定看護師の活動について、具体的な事例を交え講演した。特定行為研修に対する誤った認識も多く、看護管理者が正しく理解することでチーム医療はさらに進むと期待される。

特別講演（13：15～14：35） 参加者：87名（非会員含む）

「人生100年時代の生涯学習支援 ～次世代の看護管理者育成に繋げる～」

公益社団法人 日本看護協会 常任理事 吉川 久美子 様

生涯学習ガイドライン策定の背景、継続教育と生涯学習の違い、生涯学習の基本的な考え方、看護実践能力と看護実践能力習熟段階（ラダー）との関係、認定看護管理者制度の見直し、日本看護協会が提供する研修について、用語の定義を含め説明がされた。「教育を受ける」から「主体的に学習する」という自律的な取り組みが強調され、ガイドラインは看護師を雇用している組織や学習支援等を行う機関も対象としている。認定看護管理者の教育課程についても大幅な変更が検討されている。

実践報告（14：50～16：20）

1）2つの自治体病院統合における看護実践能力習熟段階（ラダー）作成に向けて

半田市立半田病院 病棟師長 都築 久美子 様

統合を控えた2病院が統一したラダーの作成に取り組んだ。それぞれの病院のラダーはあったが、新組織が求める人物像を明確にし、求められる能力を検討していった。役職者ではなく世代を超えたプロジェクトチームで活動したことが良かった。

2）部署を超えたコラボレーションマネジメントへの挑戦 ～看護管理者の協働を促す場づくり

大分大学医学部附属病院 副病院長・看護部長 富永 志津代 様

看護管理者が自律して行動し互いの価値を共有するために、対話の「場」を作る仕掛けをした。毎年評価を行い、変化を加えながら継続している。6年間で看護単位を超えて協働する姿勢が生まれている。

3）看護管理者に対する成長支援 ～和歌山認定看護管理者会の活動～

和歌山県立こころの医療センター 看護部長 北垣 郁子 様

県の認定看護管理者会を立ち上げ、認定看護管理者の交流会や看護管理の問題解決に取り組んでいる。出前講座やよろず相談システムの開設、情報交換会など県内の看護管理者への支援を続けている。

特別講演と実践報告の後、講師と会場参加者とで意見交換を行った。社会人基礎力とラダーの関係性、プロジェクトチームの効果や管理者の関わり方の変化、問題解決よりもできたことに注目することの効果、キャリア・オーナーシップを持って行動することの重要性など、人材育成の多くのヒントが得られた。

最後に

今回は4年ぶりの集合開催となった。出席者はリモート開催よりも少なかったが、直接交流することのメリットを再認識した。今後もより多くの会員が参加できる方法を模索していく必要があると感じた。

研修会では、「教育を受ける」という受け身から主体的に「学習」という考え方の変化と、学びを実践に活かしその実践からさらに学ぶという循環の事例を共有した。今後も本会が多くの実践を共有し循環させていく場になることを期待したい。

以上